

## 読み取ったことを適切に表現できるかが鍵！ 語彙力の強化も必須！

令和5年度国語の問題構成と配点は、**□**聞き取り(8点)、**□～□**漢字(18点)、**□**説明的な文章(22点)、**□**文学的な文章(23点)、**□**古文・漢文(17点)、**□**条件作文(12点)でした。

昨年度は短文での記述問題が多く出題されましたが、今年度は書き抜き問題が多く出題され、20文字以上という長い書き抜き問題も出題されました。また、昨年度は出題されていなかった、40字という長めの記述問題が出題されました。

**□**聞き取りでは放送文の内容に関する問い合わせが題されました。**□**漢字(読み)では、2010年に新たに常用漢字となった漢字から2問出題されました。**□**漢字(書き)では例年同様、四字熟語の問い合わせが1問ありました。**□**から**□**の読解問題では、選択問題、空所補充の問題が出題され、ところどころで国語に関する知識が問われています。また、**□**から**□**のすべての問題で、本文に関連した内容の別の文を読んで答える問題(副文読解問題)が出題されました。**□**の条件作文は、提示された資料をもとに自分の考えを述べる形式でした。

千葉県の入試は、話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項等、多岐にわたる出題が特徴のため、5教科の中でもっとも時間配分が難しい教科でもあります。知識問題に時間をかけずに、読解や作文にいかに時間を割り当てるかが鍵となります。

### ～ 大問**□** 放送による聞き取り ～

中学生が文化祭でのクラスの催し物について話している場面の放送が流れ、それに関連した問い合わせが題されました。

(1)意見に対して抱いた感想についてその理由を選択する問題、(2)二人の着眼点の違いについて選択する問題、(3)二つの意見の発想の違いを選択する問題、(4)新しい考え方を持つに至った理由を選択する問題、の4問構成でした。

意見の違いを把握する問題と考えの理由を問う問題で構成されており、相手の意図や考え方の根拠を考えるのが大事な問題でした。昨年度同様、今年度も全て選択形式での出題でした。全体の流れを把握することや、人物の発言から意図を読み取ることが求められるので、放送を聞くうえではメモを取りながら話の流れをつかめるよう対策することが重要です。

### ～ 大問**□～□** 漢字読み書き・国語の知識 ～

漢字の読み書きの問題構成は例年同様、読みが4問、書きが5問となっています。

読みは、招(まね)いて、慎(つつ)しむ、曖昧(あいまい)、辛辣(しんらつ)が出題されました。

書きは、アサ(浅)い、オガ(拝)む、ヒヒョウ(批評)、ソウカン(創刊)、年功ジョレツ(序列)が出題されました。四字熟語からの出題は7年連続で、昨年度同様、四字熟語の一部のみが問われています。漢字の読み書きにおいて、言葉の使い方に関する知識は不可欠となります。

また、「曖昧(あいまい)」や「辛辣(しんらつ)」など、2010年から新しく常用漢字となった漢字を含む言葉が出題されています。上記の四字熟語と併せて、漢字や語句の練習が必須となります。

## ～ 大問四 説明的な文章 ～

鹿毛雅治『モチベーションの心理学』から、意思決定のシステムとそれが複数ある理由をエネルギー消費の面から論じた文が取り上げされました。

(1)文章中の波線部の「広く」と同じ品詞の単語を選択する問題、(2)文章中の空所に当てはまる言葉を選択する問題、(3)文章の一部をまとめた表の空所に当てはまるものを選択する問題、(4)文章中の言葉を説明したものの穴埋め問題、2問構成。(5)本文中の言葉についてまとめたものについて副文を参考にして空所補充をする問題、3問構成。(6)文章の構成を問う選択問題、の6題構成でした。

記述形式が2題、選択形式4題での出題で、毎年問題数が変動しますが、今年は問題数が昨年度よりも1題増えています。記述形式の問題が少なく見えますが、一つの問題に対して穴埋めでの記述が複数箇所あり、合計5問分の記述が求められました。昨年度に比べて書き抜きが増えましたが、字数制限が13字から23字と長く、文章中から解答の根拠を探す力がより必要になりました。また、今年度も、設問の中に別の文を載せて読解を要求する副文読解と呼ばれる形式の問題が出題されています。大学入学共通テストの国語にも同じ形式の問題が出題されており、それを意識した形式にしているのではないかと思われます。

きちんと文を読み、内容をまとめ、適切に表現するという総合的な国語力が求められる問題になっていました。

## ～ 大問五 文学的な文章 ～

逸木裕『風を彩る怪物』より、主人公がパイプオルガンづくりを通して考えた自分の進路について話す場面が取り上げされました。

(1)傍線部の表現からその人物の様子を読み取る選択問題、(2)登場人物の考え方の違いをまとめた文の空所補充をする記述問題、2問構成。(3)文章の内容から指示語の内容を類推する選択問題、(4)傍線部の時の登場人物の心情を問う選択問題、(5)この文章を読んだ生徒の会話を用いた副文読解問題で、書き抜き2問、短文記述2問、選択問題1問の5問構成、の5題が出題されました。

今年度の文学的な文章では、昨年度に引き続き現代を舞台とした作品が取り上げされました。昨年度同様、会話部分がとても多く、地の文による情報の補完が少ないため、会話の展開から登場人物の心情を読み取ることが求められました。また、短い地の文の比喩表現などからも、心情の変化を読み取ることが必要な問題となっていました。また、昨年度は出題されなかった30字以上の長い記述問題が出題されました。

## ～ 大問六 古文 ～

『宇治拾遺物語』より、僧が初物でもてなしを受けている場面が取り上げされました。

(1)波線部を現代仮名遣いに直す問題、(2)省略されている主語を答える選択問題、(3)登場人物の行動の理由を問う記述問題、(4)この文を読んだ人が話し合っている場面について、(a)会話の空所を補充する記述問題、(b)文章の内容を説明したものの選択問題、(c)引用された漢文に返り点をつける問題、の4題構成でした。

昨年度に比べ、注釈や本文中の和訳が少なくなり、本文のみでは内容の把握がしにくかったのではないかでしょうか。一方で、設問になっている会話文の内容が本文の内容把握の助けになるものだったので、設問をしっかり読むと、その後、読み返した時に内容がわかりやすくなつたと思われます。副文をヒントとして利用する読解力、適切な慣用句を選んで使用する語彙力など、解答には様々な能力が総合的に求められるようになりました。

## ～ 大問七 条件作文 ～

日本と諸外国の文化交流を進めることの意義について、2段落構成、10行(1行20字、合計200字)以内で書くという問題でした。

資料として、特定の回答をした人が割合が年齢別に示され、前段ではその資料から読み取れることを整理し、後段では前段を踏まえて国際交流の方法について自身の意見を理由も合わせて具体的に書くことが求められました。

前段は年齢による回答割合の変化を読み取り、その原因を考えることができるかがポイントであったと思われます。後段では、具体的な方策とともに、それがどのように相互理解につながるのかを記述するとよいでしょう。

この問題は、資料から読み取ることのできる事実をそのまま記述したり、国際交流の具体的な方策を記述したりするだけでは指定の字数に足りない問題でした。寧ろ、事実の理由や原因、自分の意見の何が良いのかをたくさん記述できるような文章構成が必要でした。

正学館の国語対策では、生徒一人ひとりの学力に合わせた教材を用いて総合的な国語力の養成を行います。論説文、小説それぞれに対する読解力は短期的に身につくものではないため、早めに対策をスタートすることが重要になります。また古典分野では歴史的仮名遣い、返り点などの基礎知識のほか、説話・物語・日記・紀行文・隨筆などのさまざまなジャンルの読解問題に取り組み、実践的な力をつけていきます。読解以外にも、漢字や文法をはじめ、入試で頻出の敬語表現、語句、ことわざ・慣用句・故事成語、三字・四字熟語などの知識も狙われやすいものから効率よく覚えていきます。そして聞き取りや作文なども含め、千葉県公立入試の多岐にわたる出題形式に対応した対策を実施しています。

これらの対策を土台として、受験の最終段階では過去問演習や、正学館がつくるオリジナルの予想問題を行い、入試対策を万全なものとします。